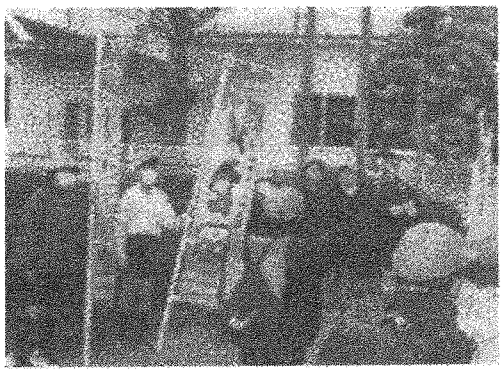
心和得天真

～心和して天真を得る～

山口市立大歳小学校
学校だより
令和7年2月

見て、心に留めること　認める力の育成にむけて



「おおとしは 元気なあいさつ ひびくまち」学校の正門には、大歳まちづくり協議会からいただいたのぼり旗がはためいています。学校においても、児童のチャレンジ目標「『おお・と・し』の『おお』は『大きな声で明るいあいさつ』」という合言葉のもと、児童の委員会活動、毎月の「好きです鴻南！挨拶運動」、良城小学校とともに実施している「鴻南ポイント」等で、挨拶を推奨しているところです。微力ながら私も、毎朝、正門に立ち、子どもたちを迎え入れるための挨拶を日課としています。

毎朝続けていますと、曜日や天候、学校での出来事や行事によって、子どもたちの挨拶の変化が感じられようになってきました。朝のちょっとした仕草からも、その日の心が表されているように伝わってくることがあります。そんな中でも、どんなときでも変わらず、大きく明るい声で、そしてしっかりと私を見て挨拶をする子がいます。今日一日を過ごしていく元気をいただくとともに、その素晴らしさが胸に響きます。

さて、少し話題を変えますが、鴻南中学校区３校の共通目標としてあげている３つの資質・能力のうち、「挑戦する力」「つながる力」については、これまでの学校だよりで触れてきました。今回は、「認める力」を取り上げてみます。

「人間の持つ性情のうちでもっとも強いものは、他人に認められることを渇望する気持ちである」アメリカの心理学者ウィリアム・ジェームスは、こんな言葉を伝えています。「認める」「認められる」と表現すると、あたかも相手を評価するような捉え方をされるかもしれません。学校図書館にある漢字辞典で「認」を引いてみると「見て心にとめる」「受け入れる」という漢字の意味が示してありました。諸説あるようですが「認める」は「見留める」という言葉から成ったと耳にしたことがあります。言葉の通り「見て」「留める（心に残す）」こと。立場の優劣などなく、そこにある存在を見て、気付くこと。事実をそのままに見て、認識すること。情報化社会といわれる今の時代は、メディア媒体の画面越しに様々な情報が行き交っており、目の前に相手やモノがいないことが日常化しています。目の前の存在をしっかりと見て、ありのままを受け止め、受け入れていくこと、そんな「認める（見留める）力」は、とてもシンプルでありながら、それでいて意外と難しいことのようにも思えてきます。「褒めること」とは違い、自分の価値観による評価も加えず、「あなたをちゃんと見ていますよ。」という気付きを言葉で伝えていくことは、大人、特に「指導」をすることを生業としている私たち教師にとっては、多少の意識が必要です。しかし、学校に来校された地域の方が「あなたはそんなことを知っているのね。」「こんなことができるんじゃね。」と、子どもたちに笑顔で語りかけておられる様子を見て、そして、ちょっと恥じらい、それでいて誇らしげな子どもたちの姿を見て、合点がいった気がします。こんな心地よい言葉のシャワーを浴びて子どもたちは自己肯定感を高め、人に対しても「認める（見留める）」言葉かけや態度ができるようになるのかもしれません。

挨拶の話題に戻ります。爽やかな朝の喜びをもたらす挨拶には、必ず「瞳」がともなっているように思います。こちらをしっかりと見て、時には微笑みや満面の笑顔とともに発せられる「おはようございます」は、魔法の言葉です。お互いを「見留め合っている」時間がくれる幸せなのかもしれません。伏し目がちに通り過ぎていく子に対しても、「見留めていますよ」というメッセージを込めて、目を向け、挨拶を発していきたいと思っています。

今年度も残り２ヶ月となりましたが、保護者・地域の皆様にも「見留めていただける」教育活動の展開に努めてまいります。

校長　岩　政　浩　二